

# シリーズ ■ 中学校武道

## 授業の充実に向けて 45

### 指導教本のねらいと活用のポイント 相撲 ①

財団法人日本相撲連盟  
中学校相撲授業指導法研究委員会

満留 久摩



日本相撲連盟発行  
『中学校体育相撲指導案』\*  
(A4判、DVD付)

「相撲は取らせるのは簡単だが、教えるのは難しい」とは、相撲を授業で取り扱ったことのある教員の言だが、蓋し名言といえよう。これまで学校現場で授業実践の少なかつた相撲は、授業で指導され、また学習されるものとして、指針となる指導資料が多いとはいえない状況であった。したがって「やってみる」のはたやすいが、何をどのような順序で教え、どう評価するかが明確になっていない側面があった。

この度、日本相撲連盟で作成した「中学校体育相撲学習指導案」は、授業における相撲指導に関する教本として、おそらく初めての本格的なものであり、各時案や資料も含め、詳細かつ緻密なものとなっている。

この「指導案」について、全体の概略、そのねらいと活用のポイントを2回にわたりご紹介したい。

資料1

目次

1. 相撲の特性と学習指導
2. 指導上の留意点、学習指導の進め方
3. 相撲の技能の学習段階
4. 単元計画
5. 単元計画図
6. 評価規準
7. 第1学年 各時指導細案
8. 第2学年 各時指導細案
9. 第3学年 各時指導細案
10. 資料
  - (1) 技能の解説
  - (2) 用語の解説

1 教本作成にあたっての組織的背景

相撲は、今般改訂された学習指導要領においても、これまでどおり柔道・剣道と併記される武道種目であり、いわば中学校体育で取り扱われるべき武道の三本柱の一つである。しかし、その授業実践は、全国的に見て

柔道・剣道のそれと比べて極めて少なく、また未経験の教諭にとって指導のよすがとなる教本や指導書もほとんど整備されていないのが実態であった。

こうした状況を受け、アマチュア相撲の統括組織である財団法人日本相撲連盟は、何よりも実際に現場で使える全国規模で標準的といえる指導案を作成することを刻下の急務とし、平成21年度より武道の必修化に対応

した準備作業に取り掛かった。平成22年4月には正式に「中学校相撲授業指導法研究委員会」（以下「委員会」）を立ち上げ、「中学校体育相撲学習指導案」（以下「指導案」）の本格的作成に取り組むこととなった。構成メンバーは、日本相撲連盟の安井和男常務理事、斉藤一雄常務理事を中心に、桑森真介明治大学教授を筆頭研究委員として、以下、現場教員3名、女性専門家1名および事務担当幹事2名の計9名であった。

以降、委員会では、「指導案」の作成作業のほか、関連教材の開発・作成、指導案の普及に関する検討などを進めるとともに、全国各地で行われる各種講習会に積極的に出向き、「指導案」に基づく講義・講演も行った。こうした講習会を通してあげられた現場教諭の意見・要望についても「指導案」作成作業に反映させ、内容の充実を図った。

この結果、武道非専門家の教諭による授業作りに役立つもの

とするために、「指導案」には技能についての分かりやすい図説や視聴覚教材が必要不可欠であることが確認された。また、具体的な授業の進め方が分かり、授業実践に直結できるよう、現場の意見にも応えて、各学年10時間扱いとして30時間分の詳細な時案を掲載することとした。

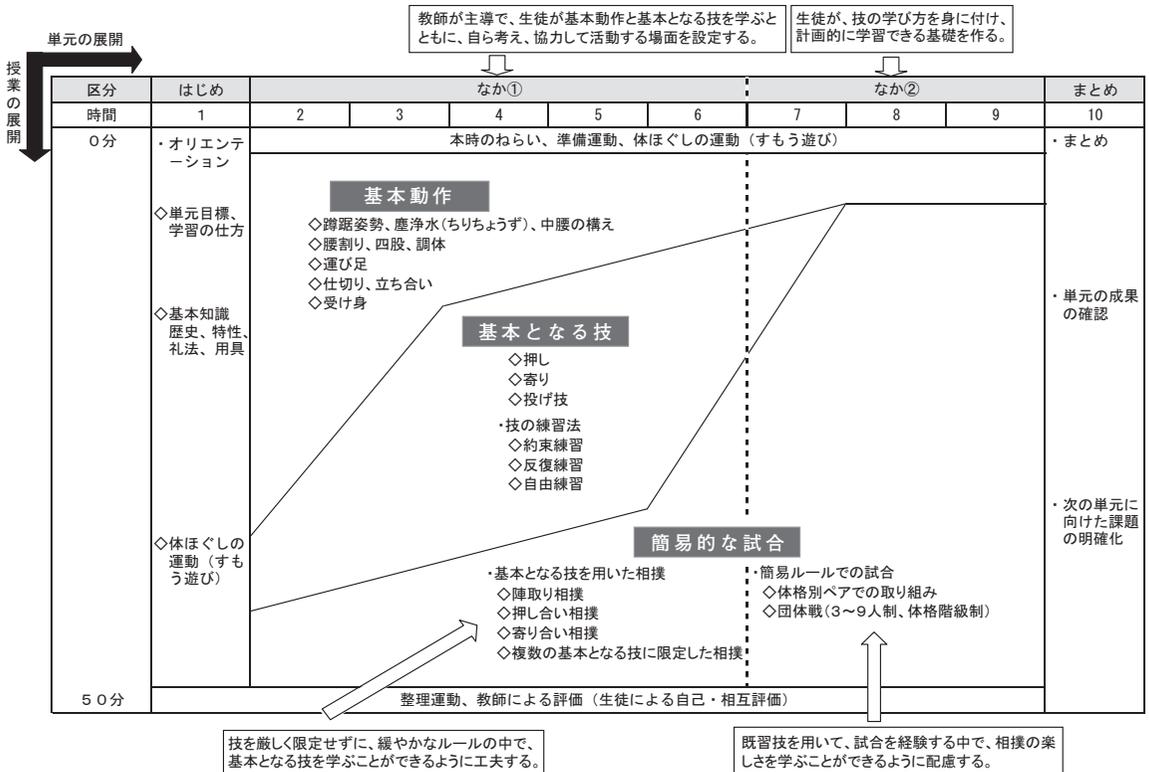
こうした作業を経て、この平成23年12月、DVD付きの「中学校体育相撲学習指導案」の完成に至った。資料1に指導案の構成（目次）を示した。

2 教本作成にあたっての基本方針

委員会では作成にあたり、まず相撲の特性を教材としての魅力という観点から、以下の3点にまとめた。

①施設面：体育館フロア、グラウンド、柔道場などを活用して

資料2 単元計画図（中学校第1学年）



どこでもできる。

② 用具面：まわしの準備は必須条件ではなく、簡易まわし、相撲パンツ、柔道の帯等を活用して実施が可能である。

③ 遊戯性：ルールが簡明で、比較的安全であり、誰でもすぐに試合が楽しめる。また一回に要する時間が極めて短く、相手を変えて何回も行えるため、生徒の興味関心を引きやすい。

こうして整理することで、相撲が学校現場の教材として大変魅力的なものであると再確認された。実際に相撲授業が行われている学校では、ほとんどのケースで、時数が進むと休み時間に生徒同士で自発的に相撲に興じる姿が見られるようになるという。上記項目が実際に生徒にとつての魅力となりうることを示唆している。

なお、安全面に関しては、相撲の技能の構造として、相手を完全に宙に浮かせる投げ技がほとんどないために、大きな事故がもともと起こりにくいものと考えている。その上で、授業の際に十分安全に配慮した指導を展開し、安全性を確保していくことが肝要であると考えている（具体的な安全指導については次号で詳述予定）。

上記の特性を踏まえ、委員会では指導案作成の基本方針を以下の3点とした。

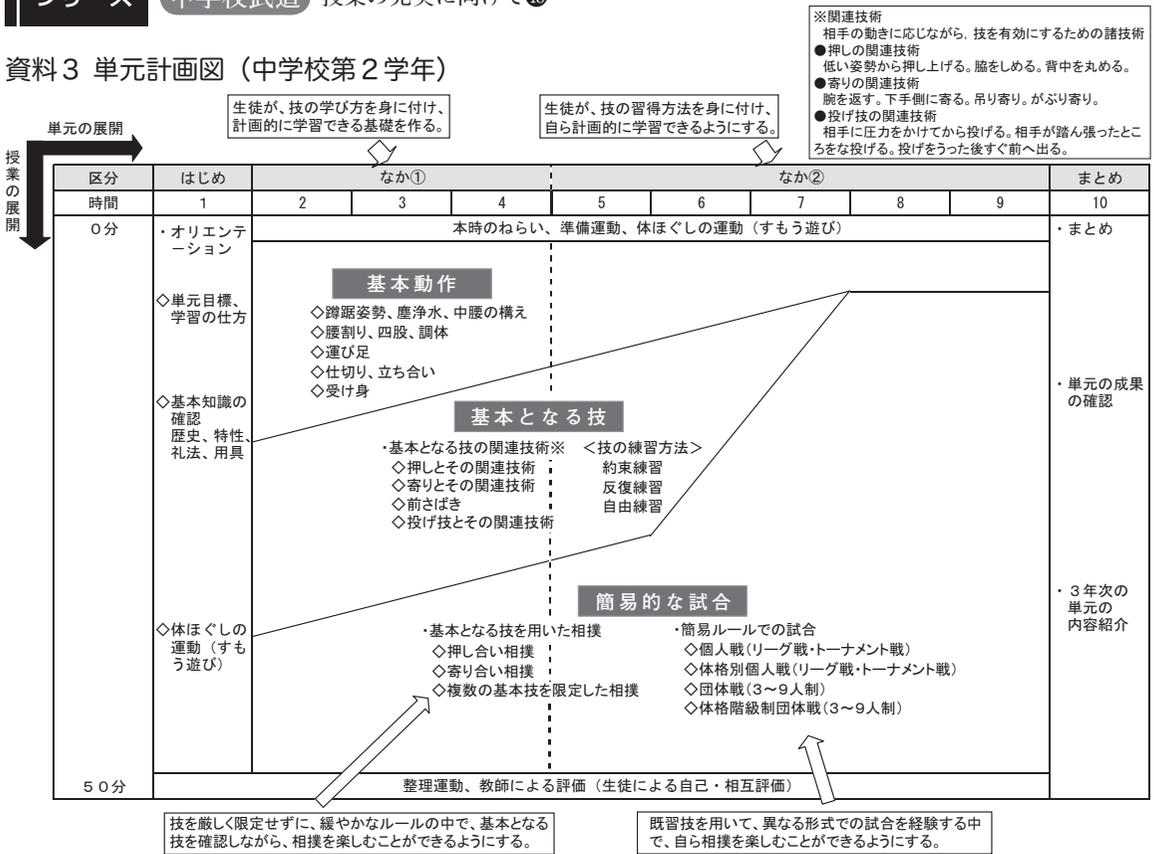
① 相撲の楽しさや喜びを味わうことのできる指導案を作成する。

② どこでも、誰でも、安全に相撲の授業にあたる指導案を作成する。

③ 社会から武道授業に要請されている内容を満たす指導案を作成する。

この中では特に②に重点を置き、非専門家の教諭にとつても使いやすく、安全で実際に効果の上がる授業ができる指導案を目指し作成にあたった。

資料3 単元計画図 (中学校第2学年)



3 教本活用のポイント

①単元計画の特徴  
本指導案における単元計画図を資料2と4に示す。これは縦軸を1単位時間の流れ、横軸を1単元の流れとし、学習の流れと取り扱う学習内容を視覚的に分かりやすいよう整理したものである。学習内容については「基本動作」「基本となる技」「試合」の3つに大別した。

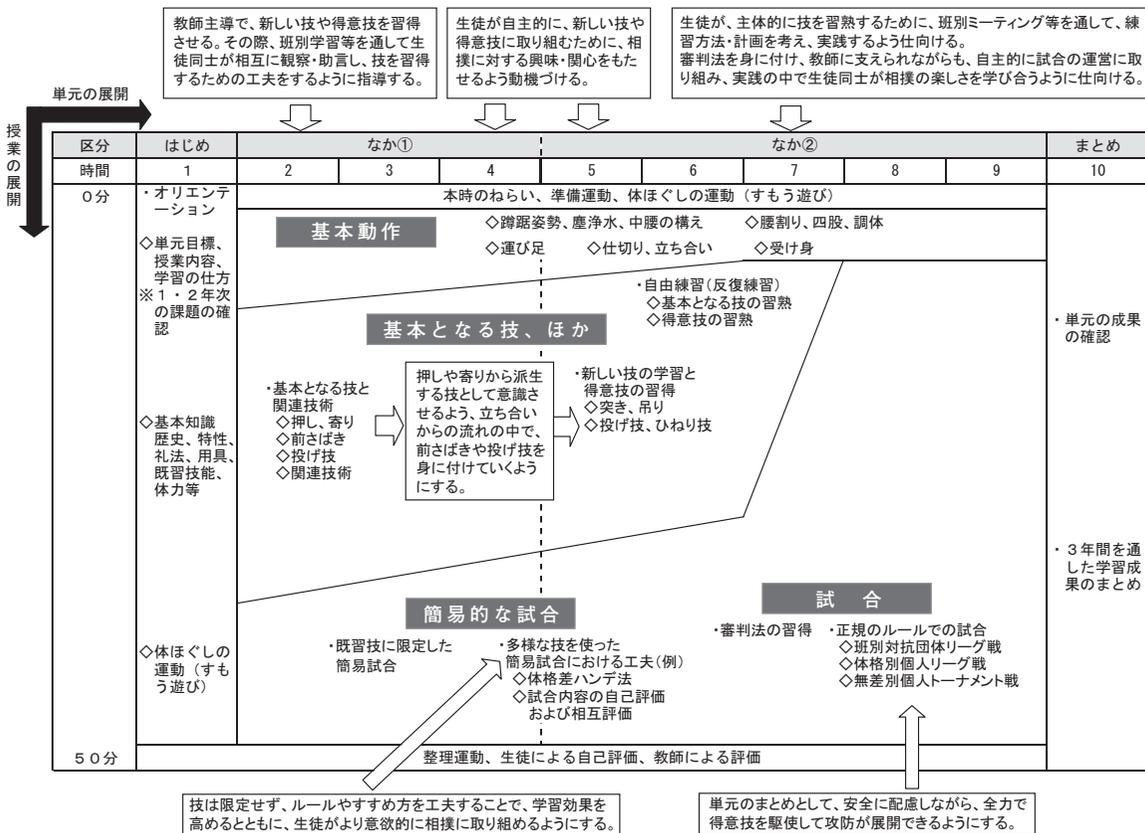
なお、③については「相撲」を今日の教科体育・武道領域の目標に合致した形で教えていく必要がある、すなわち学習指導要領の改訂に伴い、そこであつたわれている、「体力の向上」、「心身の調和的発達」、「我が国の伝統と文化の学習」を満たす学習過程とする必要があるということである。

②単元計画の特徴  
この単元計画図は、学校の状況(教員・施設・用具)や生徒の実態に応じて、各学校で策定されるものだが、単元の進め方の基本形として是非とも参考としていただきたい。

この単元計画の特徴は第一に、初期の段階から簡易試合をなるべく多く組み込んで授業を展開していくことである。資料2では中学1年の2時間目から簡易的な試合を導入している。誰もが手軽に試合に取り組めるという特性を十分に活かし、生徒の興味関心を喚起するとともに、試合を通じた運動実践の中で生徒の自発的な「気づき」を引き出せるように工夫したい。生徒が試合の中で自己のつまずきを見つけ、また他者の優れた運動実践を観察し、助言活動・グループワークを行うことで、技能向上への「気づき」「思考」「意欲」を持って学習を進められるよう指導していくことが大切である。

第二は、基本動作について毎時間導入部分で取り扱い、定着

資料4 単元計画図 (中学校第3学年)



を図ることである。基本動作については基本であるが故に逆に習熟が難しい動作も多い。準備体操として毎時間繰り返し取り扱うことで、時間をかけて徐々に身に付けていけるよう配慮することが必要である。

第三の特徴は、相撲の技能体系に応じた段階的  
技能指導の展開である。  
現在、学校の授業で取り扱う技については、基本となる技として「押し」「寄り」「投げ技」「前さばき」「突き」「ひねり技」があげられている。本指導案では1年次を、相撲の全ての対人技能の基本となる「押し」と「寄り」「投げ技」の基本学習にあてている。2年次では「押し」「寄り」「投げ技」について関連技術を踏まえて発展的学習を行うとともに、「前さばき」の学習を加え

る。3年次については既習の技能について相手の動きに応じて流れの中で行えるよう学習を深めるとともに、「突き」「ひねり技」の学習を行う。

このように整理することで、1・2年次は「押し」の学習を軸に据えながら、「寄り」「投げ技」を身に付ける段階、3年次には実戦的技能の学習を行う段階と位置付けることができる。あとは、各校の状況や生徒の習熟度に応じて適宜学習内容を精選すれば、技能指導の計画もすっきりと明瞭なものとなる。

②指導と評価について  
指導と評価に関する具体的な方法や留意事項に関しては、次号で紹介することになるが、ここでは全体として相撲に関する知識(特性、伝統的な考え方や相撲の技能(基本動作、基本となる技など)について、過度の習熟を求めないよう十分に注意することを強調しておきたい。現在の中学生にとって、武道は

好評発売中!!

DVD  
VIDEO

泊手の術が映像で初公開!  
泊空手の真実と伝承秘  
トマリ手太初

## 【収録内容】

- トマリ手の鍛錬 1  
(移動稽古、押し合い、上中下の受け)
- トマリ手の鍛錬 2  
(組んで投げ、突き合いの稽古)
- 型の稽古  
(ナイハンチ、セイサン)
- トマリ手の型  
(ナイハンチ、セイサン、サイの型)
- 競技に活かすトマリ手の技法

■商品番号:DCMP-4601

■収録時間:カラー75分

■価格:6,000円(税込)

CHAMP 商品のお問合せ・ご注文はこちらまで

TEL: 03-3315-3190

受付時間 9:30~18:30 定休日 日・祝日

FAX: 03-3312-8207

http://www.champ-shop.com/



中学校武道授業(相撲)指導法研究事業(主催=日本武道館・日本相撲連盟、後援=文部科学省)で、押しの練習をする中学生

もともと馴染みの薄い存在であり、未経験者にとってははなおさらである。学習の効果を早急に求めたり、習熟を過度に望んだりすることは、学習する生徒にとっても、教える側の教師にとっても大変なストレスとなる。例えば技能についていえば、全ての技能の基礎となる基本動作「中腰の構え」と基本となる技「押し」について重点的に指導し、その他の技は全て「押し」からの派生技と割り切り、

習熟が困難な各種技能の指導に拘泥しないような考え方が大切となる。

◆ 本指導案の基本的な考え方を参考にし、生徒が相撲の楽しさを体験する中で、時間をかけて学習を深化させてほしい。そして、最終的に特性・技能を理解・習得し、武道の素晴らしさを体得できるよう、各校で指導と評価の方法を工夫して案出していくことを期待したい。

\*12月15日時点、表紙デザインは最終調整中。112頁の写真は筆者によるイメージ